

市議会建設企業委、談合疑惑解明の百条委設置陳情を不採択に 「これなら議会はいい」と陳情者から反発の声



驚きました。上越市のガス水道局所管の本支管工事における入札談合疑惑解明のために市議会は百条委員会設置を、という「くびき野地問題研究会」（後藤紀一代表代行）など3つの市民団体の陳情を市議会建設企業常任委員会

はひとつもなく、採決前の意見表明では理由にならない意見も出たことから、傍聴者の怒りは爆発、「議会の恥だ」「これなら議会はいい」などのヤジが飛びました。なお、この委員会には、残念ながら日本共産党議員団の委員はいません。

社会福祉事業への補助増額を 社協の陳情を厚生委が採択

「地域福祉事業運営費の補助を増やしてほしい」「介護保健施設の土地使用料の減免を」という社会福祉法人上越市社会福祉協議会（以下、社会福祉協議会）の訴えが6日の厚生常任委員会で認められました。同会の陳情を採択したのです。

この日、社会福祉協議会の大竹事務局長が陳情趣旨を説明しました。同局長は、「運営費は新年度から1812万9000円となるが、これは職員3人から4人分に値する金額で、これでは上越市の事業をこれまでと同じように行うことができない。中山間地を抱える13区では高



齢化がすすみ、減少が減少する中、地域住民同士が互いに支え合い、元気で、健康で、毎日が生きがいを持てるような事業の取組が必要とされている。この運営費では13区はもとより、合併前上越市内の支所も廃止せざるをえなく、悩んでい



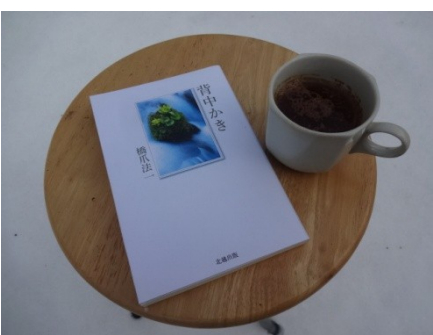
【ウソ】朝、きれいな小鳥だと思ったら、ウソでした。悲しげな調子で鳴くので、かわいそうに思うのですが、桜の木の芽を食べてしまうこともあるので、要注意です。写真は吉川区代石にて撮影。

る。このままでは、高齢者、児童、福祉団体などの弱者の窓口を失うことになる」「やすらぎ荘は長野県北部地震で被災しての再建。社会福祉協議会にとっては貴重な財源を投じての再建である。使用料の減免については他施設と同様に斟酌してほしい」とのべました。

委員会では、日本共産党議員団の平良木委員が、「行政と二人三脚で地域福祉に貢献してきた。ここで事業が滞ってしまうことになれば、市民の福祉にとって大変な痛手となりかねない。他市の状況を見ても、新潟市、長岡市などでは人件費補助金は交付税の算定にかかわらず数倍出ている。（補助を増やすことは）妥当だ」と陳情採択を主張、他の委員も一部で、「もう少し、現場を見るなどのために継続審査にしたらどうか」という声があつたものの、「地域福祉を後退させるわけにはいかない」「基本的に理解できる」という声が多数を占めました。採決の結果、全会一致（会派みらいの委員は退場）でこの陳情は採択されました。

は10日、全員一致で不採択にしたのです。意見表明で各委員は、「百条委は望ましいが、有効かどうか疑問。現段階では調査のプロである公取委の調査を優先する方がいいのではないか」「市長は2月に公取委に通知したということだ。今後は公取委の調査にゆだねて、見守るべきだ。現段階では百条調査設置は必要ない」「一番大事なのは、こういう談合が二度と起きないように方向に向かっていくことだ。百条委は重要な委員会になるし、時間的にも精神的にも相当の意識を集中して行わなければならない。その重要なことをなすために私たちが十分なバックアップがあるか、ベースがあるかどうか考えなければならぬ。私たちは市民の願いがどこにあるかを冷静に判断したうえで百条委の設置を判断すべきだ」などと反対理由をのべました。

3団体が口頭で陳情した際は、陳情者に質問



新随想集「背中かき」

4月1日に5冊目の随想集、「背中かき」を北越出版から刊行します。1冊千円ほどになる予定です。市内の書店にならびますので、よろしくお願ひします。



NO 1648
2014.3.16

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 025-548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp

左記の電話が通じない時、こまった時は橋爪法一の携帯電話へ
090-5392-1961

春よ来い 第二九六回 ひ孫

初めて見るひ孫がよほどかわいかったのでしょう、先だつての日曜日、母は姪夫婦が赤ちゃんを連れてわが家を訪ねてくれた時のことをニコニコしながら私に語ってくれました。

テレビでは大相撲中継が始まり、遠藤が二日目に初めて横綱日馬富士に挑戦するということをアナウンサーが紹介していました。土俵上は稀勢の里と隠岐の海の対戦。ハツケヨイ、ノコッタ、ノコッタ、上手投げ、稀勢の里の勝ちとなりました。

ここで母は相撲を観るのをやめて、私に声をかけてきました。

「ミサトちゃんがな、オヤジさんと二人で、子ども、見せに来たがど。ほして、おれ見ると、赤ちゃんがニカニカと笑った。目配りもコッコしてた。そしたら、オヤジさん、『おれは、笑ったとこ、見たことない』そう言つて携帯で写真、撮ろうとしたんだけど笑わなかったがど……」

「おまん見て、笑ったがどか」

「おお、笑った、笑った。おれ、赤ちゃんをちよつと見て、『ひよつ』と言つたら、笑った。まあ、ほんとにかわいがど」

姪のところ「天使が舞い降りた」のは一月の下旬のある日でした。すぐにでも母に見せたかったようですが、ちょうどインフルエンザが流行していたこともあって、赤ちゃんとともに姪夫婦がやって来る日は三月にずれ込みました。

赤ちゃんを見れば、誰でも抱いてみたいくなります。母のその気持ちをくんで、姪は母の腕の中に赤ちゃんを渡したのでしょうか。

「赤ちゃん、『抱いてみる』せうすけ、抱いてみたけど、抱いていらんねがど、重たくて……」

母の言葉を聞くだけで、その時の様子が目に浮かびます。小柄な母には、抱き続けるのは体力的に無理だったのでしよう。母はすぐそばの座布団の上に寝かします。そしたら、赤ちゃんがまたニカニカと笑ったということでした。母が喜ぶわけです。

久しぶりに赤ちゃんを抱いた母は、その重みから、かつて自分が赤ちゃんを抱いたときのことを思い出したようです。突然、数十年前の話を話しました。

「おまんがちちちやい時、赤ちゃんの検査かなんかがあつて、分場（ぶんじょう）へ連れてつたら、『橋爪エツさん』と呼ばれて……。おまん、目方が一番いっぺあつたがど。それと、忘れらんねがは、東（屋号）のカチャと大東（屋号）のカチャと三人で赤ちゃんぶつて、シヨシヨウ寺（正式名称は光宗寺）に行ったことだ」

後段の話には驚きましたね。蛍場の若い母ちゃんたち三人が連れだつて、一日がかりで柿崎の平沢のシヨシヨウ寺まで歩いて行ったというんですから。それも、背中に赤ちゃんをぶつてでした。ぶつてもらつたのはコイちゃ、ケコちゃ、それに私です。わが家のあつた蛍場から坪野、芋島を経て、岩野から山の方に向かって道を歩く。想像しただけでも、たいへん疲れた気持ちになつてしまします。それでも、母たちには楽しい思い出つたようです。途中、アイスクリーム売っているお店に二回も立ち寄り、棒状のアイスクリームにかぶりついて食べたといひます。

今月末か来月の初め、今度は昨年結婚した甥夫婦にも赤ちゃんが生まれる予定です。母にとっては二人目のひ孫となります。母のことですから、生まれれば、また、赤ちゃんを抱っこし、「ひよつ」とやつて笑わせるにちがいありません。



今年も法要・雪中参拝

1883年（明治16）3月12日、尾神岳で大雪崩が発生し、東本願寺再建の用材を運んでいた人たちなど27人の方が亡くなった話は有名です。11日、12日と真宗大谷派高田教区第12組の人たちなどが吉川区のスカイトピア遊ランドに集まり、法要と研修会、「報尽碑」雪中参拝を行いました。初日の会場には地元の人を中心に60人ほどの人たちが集まりました。

研修会では富山民族の会の加藤亮子さん（写真）が「刀利谷の信仰生活」を語り、旧刀利村の谷中定吉さんが「刀利谷をつくった山崎兵蔵」を紹介してくださいました。「刀利（とうり）というのは富山県南砺市の刀利ダム建設で水没した地域名です。ここでも東本願寺再建用材を運び出したドラマがありました。

谷中さんが紹介された山崎兵蔵は、すぐれた教育者ただでなく、文化、産業振興など様々な分野で活躍した

人です。「刀利の神様」としていまも地域の人たちの心に生きています。谷中さんの話に出てきた、「文化は山から」という言葉が気に入りました。

交流会では、私からも尾神岳雪崩事故についての記述があつた「内山盛之助日記」（大島区嶺）のことを紹介させてもらいました。大島区大平の高橋英夫さん（旧大島村教育長）が現在、パソコンでこの日記のくずし字を現代語にする作業をすすめておられます。

フキノトウ、いまが旬

今冬は少雪です。あちこちでフキノトウが出始めています。私はすでに3回ほどフキ味噌や天ぷらをご馳走になりました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	3月5日(水)	3月12日(水)
上越南消防署	0.046	0.033
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.040
頸北消防署	0.060	0.036
頸南消防署	0.043	0.050
東頸消防署	0.053	0.050
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.050	0.047